総合医学会報告

シンポジウム2

看護師のチーム医療
-真の看護の専門性とは-

座長　七井裕子†　　青芝映美*

第65回国立病院総合医学会
（平成23年10月8日　於岡山）

IRYO　Vol. 66　No. 11（637－639）2012

要旨　平成22年3月，厚生労働省から発出された「チーム医療の推進に関する検討会報告書」を受け，チーム医療におけるキーパーソンとしての看護師の役割が重要視されてきている．

当シンポジウムにおいては機構外の病院で，積極的に専門・認定看護師の育成および活用をされ，チーム医療の質向上に積極的に取り組んでいる倉敷中央病院からの実践報告，九州医療センターでは臨床現場での経験と知識が専門職の育成に不可欠という視点での教育師長の立場からの報告，東京医療保健大学では他職種共通学科を創設し，教育の段階でチーム医療における看護師の役割認識の育成に取り組んでいる教育の紹介，熊本医療センターにおける地域連携室担当看護師長の活動，岡山医療センターCCUにおける認定看護師の実践報告をもとに，チーム医療における看護師の専門性と役割を検討した．

結果，看護職は常に患者の立場から情報発信し，チーム医療のなかでのコーディネーターとしての役割を担うことの必要性が明らかとなった．このことから他職種と協働できる調整能力の高い専門職看護師の育成が学校教育，臨床教育の中でも看護職全般の専門性を高めるための臨床教育，基礎教育のあり方，臨床における専門性の育成，専門職への動機付けのための研修制度の整備，専門看護師・認定看護師への支援が今後さらに重要になってくることを確認した．

キーワード　チーム医療，看護師，人材育成，専門性

はじめに

質の高い効率的な医療の提供に向け，厚生労働省は平成22年3月「チーム医療の推進に関する検討会報告」において，医師・看護師・他医療スタッフとの連携・協働のあり方について提言した．チーム医療とは医療に従事する多種多様な医療スタッフの高度化・複雑化，多様化するニーズの高まりのなか，安心で，安全な医療を提供するために，各々の専門職が，高い専門性を前提に目的と情報を共有し業務分担しつつも，互いに連携・補完し合い，患者の状況に的確に対応した医療を提供することである．

国立病院機構九州医療センター　看護部　＊国立病院機構呉医療センター　看護部　†看護師
別刷請求先：青芝映美　国立病院機構呉医療センター　〒737-0023　広島県呉市青山町3－1
（平成24年2月20日受付，平成24年9月14日受理）
Medical Care by a Team of Nurses: the Specialty of Nursing
Yuko Nanai and Terumi Aoshiba, NHO Kyusyu Medical Center, ＊NHO Kure Medical Center
Key Words: team approach in medical care, nurses, mentoring, sub speciality

本シンポジウムでは，チーム医療の実現のための①看護職の役割の明確化②人材育成の現状と課題③他職種間の連携・補完，以上の３つの視点から，管理者の立場，大学での基礎教育，臨床教育，救急救命・地域連携室での実践の事例を通して看護職の責務と看護の専門性とは何かを検討した．

チーム医療のなかでの看護の専門性とは

近年，施設内において栄養サポートチーム，呼吸サポートチーム，感染制御チーム，褥瘡対策チーム，緩和ケアチーム等，組織横断的活動を担う医療チームのなかで看護師が自律的に活動する場面が増え，専門看護師・認定看護師がチームの中核的存在となって活動し臨床で高い評価を受けている．チーム医療において最も大切な看護師の役割は，常に患者・家族と接しており，入院中の全過程を見守ることのできる立場から，患者・家族のニーズや希望を理解し，他職種との橋渡しをする重要な役割を果たすことである．よって，看護師には患者情報の発信とコーディネーターとしての役割が期待されており，チーム医療のキーパーソンであるといえる．

実践報告から

看護専門職の活動と育成について，看護管理者である阿部は倉敷中央病院における栄養サポートチーム，呼吸サポートチーム，感染制御サポートチーム，褥瘡対策チーム，緩和ケアチームなど組織横断的チームの中で，専門看護師５名，認定看護師20名による看護の専門性を発揮した活動内容を報告した．まず，栄養サポートチームを看護師長が強力なリーダーシップを発揮し，チームを組織化し，実践の効果を上げた事例をもとに医療チームのなかでの看護職の重要性を述べた．また，医療チーム内での専門看護師・認定看護師の役割についても言及した．その上で，今，看護管理者に求められていることは先見性をもって組織にとって必要な領域の看護専門職を育成することであると結論づけた．看護管理者は①学会，研修会，講演会への参加支援を行い教育の機会を提供する．②部下の評価育成面接を行い看護師のキャリア開発と支援を行う．③専門看護師・認定看護師の育成を目指した教育環境を整備する．人材育成のための環境整備に努め，組織にとって必要な看護専門職を計画的に育成していく必要性を述べた．

石原は九州医療センターの教育師長の立場で，専門家を育成するには臨床の場で何が重要になるのかを分析した．その結果，臨床現場での経験や事例が看護師の成長に大きく影響し，自ら行った行為の意味や価値を同僚や他職種の反応を基に分析し，さらに実践にそれを生かす学習過程が専門職としての看護師を育てるという視点から，看護職が自己の専門性を自律的に獲得していくことができる教育とは何かを述べた．その上で，専門看護師・認定看護師等への将来のキャリア・アッププランについて自らが選択していくことが重要であるとした．

宮本は，東京医療保健大学での医療情報学科・医療栄養学科・看護学科から構成されている教育において，チーム医療の鍵となる他職種とのコミュニケーション能力を高めるため，基礎教育の段階から他職種と合同で教育を行っていることを紹介した．早期に他職種間の共通言語と知識を共有し，チーム医療のキーパーソンとしての役割意識の育成を行った結果，臨床からのよい評価が得られていることを報告している．実際には３学科協働で具体的な臨床テーマについての協働実践演習をとおして，学生は自職種の役割を明確に理解できていないとチームに参加しても役割を果たせないことを理解し，そのために看護師として何が必要かを学びとっている．

田中は熊本医療センター地域連携室係長として看護師長の立場でリーダーシップを発揮している．患者や他職種のよき相談者であり，がん相談支援センターでも中心的な役割を果たしている．連携病院への情報発信をはじめ，地域連携パスの推進・退院調整スクリーニングなど患者・家族の立場に立った支援を行っており，多くの職種が適切に関与できるようコーディネーターとしての役割を担っている．今後は臨床の看護師が退院支援へより積極的に参加できるよう教育システムを構築していきたいと述べた．

福光は岡山医療センターの集中ケア認定看護師として，CCUのなかで生命の危機にある患者・家族にとって最善の医療を考え，医療チーム全体に組織横断的な活動や，CCUでの実践・指導を通してリーダーシップを発揮していく必要があることを報告した．また，スタッフ間の信頼関係を築くことが多職種が協働する職場風土作りに繋(つな)がるとも述べた．呼吸サポートチームでの活動，酸素化改善のための看護実践と指導，二次合併症と廃用障害の予防，家族ケア，後方病棟への訪問指導，治療環境の整備や，患者の支援など多くの主体的な活動に積極的に取り

組んでいる．

まとめ

特定看護師の創設が提案され，機構病院においても平成24年４月から臨床に特定看護師（仮称）が実際に配置されることになり，看護師が自律的に判断し，行動できる機会が拡大すると考えられる．それにともない実施できる医療行為の範囲も拡大が予測され，チーム医療の推進への貢献が期待されている．看護職は常に患者の立場から，医療が安全に適正に提供されているのか把握し，全経過を見守る役割と，チームのなかで患者の希望やニーズを把握し，患者支援の方向性について提案する責務がある．チーム医療のなかでの看護師の役割が重要視されるなかで，他職種と協働できる調整能力の高い専門職としての看護師の育成が基礎教育，臨床教育においても，今後，さらに重要となる．

〈本論文は第65回国立病院総合医学会シンポジウム「看護師のチーム医療」で発表した内容を座長としてまとめたものである．〉